

I 実践

1 研究主題

思いやりの心をもって、好ましい人間関係を築くことができる児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校は、複式学級のある小規模校である。今年度から小規模特認校制度による転入児童の受け入れが始まり、10名の児童が転入したため、全校児童は24名となった。また、小中一貫教育も行われており、コミュニケーション科の新設や様々な表現活動の場を設定して取り組んでいるため、自分の考えを相手に伝えようと意識し、表現できるようになってきている。しかし、他校からの多くの転入児との出会いから新たな人間関係づくりが求められ、今後も課題となってくる。

そこで、異学年交流などの様々な体験活動を取り入れることで、お互いを知り、相手を思いやる心を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

ア 日立特別支援学校との交流学习（1・2年生）

イ 豊かな体験活動の展開（縦割り班活動など）

ウ 人権教育の環境づくり

2 実践内容

(1) 日立特別支援学校との交流学习

昨年度までは、年1回の交流であったが、今年度は、特別支援学校からの依頼もあり、7月と11月の2回の交流を行った。1回目7月の「なかよし集会」では、名刺交換やゲームなどを通して、お互いをよりよく知り仲良く活動することをねらいとして行った。夏の暑い日であったが、里川隣の水辺空間で虫取りやシャボン玉を楽しんだ。本校児童が進んで声をかけて遊びに誘ったり、誘われて一緒に手をつないで散歩をしたりと自然に仲良く交流することができていた。ふだんは、友達にもわがままを言うような児童も、自分を抑えて相手を思いやる行動がとれていた。また、集会後の作文には、覚えた友達の名前を何人も書いている子や、困っていたので手を貸してあげたことなどが書かれ、ねらいが達成されていたことが伝わる内容であった。



2回目11月の「なかよし集会」に向けての児童たちの取り組みは、1回目と違って「〇〇ちゃんに会える。楽しみだなあ。」「プレゼントは〇〇ちゃんの好きな車の絵を描いてあげよう」などと、相手意識をもって集会の準備が行えた。昨年度までは、集会の時間のみの交流だけだったが、2回実施できたことにより、より深い心の交流ができたことは大変よかったと感じた。最後のプレゼント交換では、学級会で話し合っ作った、相手に喜んでもらえるしおりにメッセージを書いて渡した。事後には、心のこもった手紙の交換をすることで、さらにつながりを深める交流を図った。年間2回の実施となると難しい面も多いが、児童間につながりを深めるために来年度も実施したい。



(2) 豊かな体験活動の展開

ア みんなでランチ（年間3回実施）

健康委員会が中心になって、企画・準備・進行をしている。全校児童と教師全員を3つのグループに分けて、多目的教室を会場に、一緒に仲良く話をしながら給食を食べる活動である。今年度から導入された小規模特認校制度による転入児とは、学年が違うとなかなか話す機会もないため、このような場でお互いを少しでも知り、友達になれるような効果も期待したい。また、普段なかなか話せない校長先生や事務の先生などとの食事も、児童はとても楽しみにしている。事後は、イラスト入りのカードに感想を書き、写真と共にパントリー近くの掲示板に掲示し、楽しい雰囲気作りをしている。早く自分の番が来ないかと心待ちにしている児童が多い。

イ 異学年との交流（縦割り班活動）

本校は、児童数が少ないため、縦割り班での清掃活動を行っている。年度当初に、学年や兄弟、その他人間関係を考慮して教師側が5つの班に分け、清掃場所をローテーションしながら取り組んでいる。低学年を高学年が思いやる場面は、毎日のように自然に見られる。昼休みが終わると、低学年教室に迎えに行ったり、終わった後は一緒に連れてきてくれたりする姿もよく見かける。今年度は特に、半数以上の転入児童がいて、学校の1日の生活の流れが身に付いていないため、もともとの中里小児童が、優しく声をかけながら、やり方を教えて清掃に取り組んでいる様子がとてもほほえましい。転入児も徐々に慣れてきて、活躍の場も見られるようになった。

ウ 米作り（全校活動）

毎年、学校で水田を借りて、田植えから稲刈り、脱穀までを全校で取り組んでいる。今年度も5月に泥にまみれながら田植えをしたり、一人ずつ鎌を持って稲を刈ったりと低学年も一緒に張り切って取り組んだ。生まれて初めての体験という児童も多く、とてもよい活動ができた。今後とも継続していくことになっている。

(3) 人権教育の環境づくり

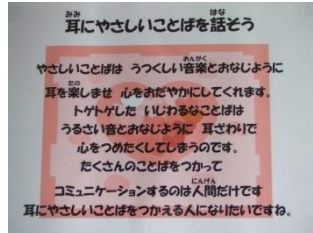
各教室に人権コーナーを設置して、自尊感情や他尊意識を高めていけるように努めている。



ほっとニュース



ありがとうの花たば



耳にやさしい言葉を話そう

3 成果

- ・各学級に設置した人権コーナーの活用により、友達のよいところや友達の考えなどの理解が深まり、他尊意識を育てたり、頑張った自分へのメッセージを書くことで自尊感情をも高めたりすることができた。今後もこうした取り組みをさらに充実させていきたい。
- ・小規模特認校制度による転入児が、早く本校に慣れて友達と仲良く生活できるようにするためにも、縦割り班活動や全校活動は大変効果的である。異学年間の交流をさらに深めていきたい。

II 今後の課題

小規模校であるため、自分中心の考え方をしてしまう児童が見られる。各教科や道徳の時間など学校教育全体を通して、人権に関する学習をより充実させ、児童一人一人の人権意識を高めるための取り組みを計画的継続的に実践していきたい。

III 人権コーナーの設置の様子

昨年度から取り組んでいる全児童の「人権メッセージ」を顔写真と共に掲示したり、特別支援学校との交流会の様子の写真や手紙などを掲示したりして、児童に啓蒙を図っている。



人権メッセージ